

次の
I の問題は、「国語(1)」の受験者、および「国語(2)」の受験者に共通の問題です。(解答番号は 1 ～ 20)

I 次の文章を読み、後の問い(問一～問十二)に答えよ。(60点)

一〇年近くまえ、団塊世代のある社会学者が『おひとりさまの老後』というタイトルの本を出し、ベストセラーになったことがあった。ここ最近では葬式は要らないという本も目立つ。ひとりで生き、ひとりで死に、子孫になにも残さない。なるほど、それは潔い生きかたではあるだろう。

けれども、¹ みながひとりだけで生き、ひとりだけで死ぬと決めることは、またべつのも意味している。そのように決めたひとに対しては、もはや「いまここ」の利害以外の論理が通用しなくなる。多くのひとが世俗主義と功利主義を奉じるようになった世界では、正義や道徳について語ろうとしても、「そうすると褒められる」(快樂が増える)か「そうすると批判される」(快樂が減る)かぐらいしか、訴える言葉が存在できなくなる。たとえ「いまここ」の快樂に反しても、先祖や子孫のために、あるいは現世を超えた超越的価値のためになにかを残したり、なにかを打ち立てたりする、そういう行動を正当化する理屈が存在できなくなるのだ。

ぼくがこのようなことを考えるようになったのは、震災と原発事故が^A きっかけである。原発はすばらしい技術だが、使用済み核燃料の処理方法が見つかっていない。たとえ事故を起こさなかったとしても、原発が未来の環境に負担をかける存在であることはあきら^B かだ。だからぼくは、事故からしばらくのあいだは、原発とは中央が^a 辺キョウに^a 押しつけている必要悪であり、辺キョウの住民もいやいや受け^a れているものだと信じていた。つまり、原発は^a なければいけないほうがいいと、みなそう思っている^a と信じていた。

ア、この五年で^b わかったのは、事態はそれよりもはるかに複雑、いや、
イ シンプルだということである。原発は未来の環境に^b 一方的に負を残す。けれども、そのことさえ忘れれば、原発ほど都合のいいエネルギー源はない。電力会社

は潤う。立地自治体は潤う。原発産業も潤う。電気の数値は下がり、消費者まで潤う。世俗的な功利だけが善の基準なのであれば、原発はどうやら善なのだ。

震災後の日本の状況は、ぼくたちが原発を善と考えるしかない社会のなかにあることをはっきりと示してしまった。ぼくたちはみな世俗主義者で功利主義者で「おひとりさま」で、「いまここ」の利益しか考えることができない。否することができない。地元の住民は喜んでいて、おまえの利益にもなる、事故は起こさないように努力するといわれたら、なにもいい返せない。そしてじつさいに、いまは立地自治体の住民自身が再稼働や新設を求めている。

いまの日本には、経済合理性と「当事者の声」しか公共善について語る基準が存在しない。儲かることは考慮される。当事者の訴えも考慮される。ちょっと目端のきくひとは、両者を組み合わせることを考える。社会起業家といわれる人々がそれだ。彼らは、当事者の訴えを市場原理のなかで実現すること、それが新たな時代の正義なのだと訴える。ぼくはそれを否定しない。ぼくだってゲンロンを経営しているのだから、似たようなものだ。

けれども、それだけではすべては解決しないのだ。世のなかには、経済的な利益にならず、けっして当事者が語ることもないが、にもかかわらず社会のためには聞き逃してはならない声がある。世俗と功利の論理、いかえれば民主主義と資本主義の論理は、それらの声に原理的に気づくことがない。

当事者が語らない、聞き逃してはならない声とはなにか。ひとつのヒントが、石牟礼道子の『苦海浄土』にある。

あらためて紹介するまでもなく、『苦海浄土』は、水俣病みなまたびょうの存在を世界に知らしめた記念碑的な著作である。独特のリズムをもつ水俣弁で、被害者の声を借りて、公害の現実と苦しみを生々しく描き出している。文学的にも評価が高い。一九六九年に『苦海浄土』が出版されたとき、作者の石牟礼は水俣に住む **I** にすぎなかった。

この作品にはたいへん興味深い性格がある。いまの紹介からもわかるとおり、この著作はたいへんノンフィクションとして読まれている。ネットの感想を見ればいまの読者がそう読んでいることはわかるし、おそらく当時の読者も同じだっただろう。けれどもその読解は正確ではない。

石牟礼は『苦海浄土』の一部を、聞き語りの形式で書き記している。登場する人々の名前は実名で、地名も年号も事件の細部も具体的で、ディテールまで生々しい水俣弁で記されているので、読者はそれがじっさいに患者が発した言葉そのものだと信じ込んでしまう。

ところが、それは事実と異なっている。『苦海浄土』の講談社文庫版には、渡辺京二が長い解説を寄せている。渡辺は、本書の原型となった原稿が熊本県の同人誌に発表されていたときの担当編集者、つまり本書の産婆役を務めた人物である。彼によれば、石牟礼は「Ⅱ」ではなく、一個の「Ⅲ」だった。そしてじっさいに、『苦海浄土』に登場する語りの一部は、聞き書きではなく、取材での印象をもとに石牟礼が想像で作りあげたものだった。考えてみれば、当時はまだテープレコーダーは大きく、たやすくもち運びできるものではなかった。そんな時代に方言による長時間の会話を正確に記録し、文字起こしできるわけがないし、病床に伏せる漁師たちが整然と自分史を語るわけもなかっただろう。つまりは『苦海浄土』は、本質的には、石牟礼という詩人が水俣の住民たちに仮託ⁱⁱして書き上げた「私小説」³——これは渡辺の表現だ——なのであり、けっしてルポルタージュでもノンフィクションでもなかったのだ。彼が聞き書きの事実関係について問いただしたとき、石牟礼は「いたずらを見つげられた女の子みたいな顔」をして、つぎのように答えたという。「だって、あの人が心の中で言っていることを文字にすると、あなるんだもの」。

⁴現在の常識で判断すると、これはたいへんなことをいっている。『苦海浄土』が出版されたときには、まだ水俣病の原因についてさまざまな意見があった。行政の動きはたいへん鈍く、漁村から離れた水俣市内では、^d税金やコ用への配慮からむしろ加害企業を擁護する声が目立っていた。そのような葛藤のなかで、ある政治的な立場にたって被害者の声を「創作」する。もしいま、同じことを福島の原因事故について行ったらどのような反応が来るだろうか。おそらくは悪質な捏造^{ねつぞう}として厳しく批判され、作者は謝罪に追い込まれ、著書は回収されてしまうだろう。

けれども石牟礼は謝罪を求められなかった。『苦海浄土』も回収されなかった。それどころか、石牟礼という「幻想的詩人」の「創作」は、被害者が「心の中で言っていること」を取り出すための文学的な手法として理解され、多くの読者を獲得し、

大きな社会的うねりを生み出した。

二〇一六年のいま、石牟礼のような手法が肯定されるべきなのかどうか。ぼくにはよくわからない。ぼくもまた二一世紀に生きているので、「エビデンス」^Cとかいつてみたくなる気持ちはある。事実にもとづかないのであれば、小説として書くべきだという考えもわかる。けれども、もし石牟礼が、事実と虚構を峻別^{しゅんべつ}し、当事者が語ったことと語らなかつたことを区別して記す作家だったのであれば、『苦海浄土』はけっして生まれなかつたことだろう。そして、水俣病の苦しみは、少なくともいまのように広く理解されなかつたことだろう。

政治家も文学者もジャーナリストも、いまはみな当事者の声を「代弁」することしか考えていない。現代の日本ではそれぐらいしか正義の根拠がない。

けれども、それはほんとうに代弁になっているのか。彼らが行っているのは、当事者の代弁のようであって、じつは、「当事者がいえること」の、「当事者がいべきであること」の、そして「X」の反復でしかないのではないか。ひとにはだれでも、思っているもいえないことがある、また本人でさえいいたいと気づいていないことがある。それが石牟礼がいった「心の中で言っていること」である。それは現実にはいわれないのだから、それを「代弁」することには根拠がない。けれども、「エビデンス」などけっして届かない、その無根拠の闇に降りずして、なにが弱者の代弁だろうか。⁶『苦海浄土』は、ぼくたちの時代のそんな浅薄さにあらためて気づかせてくれる。

(東浩紀『テーマパーク化する地球』による)

注 ゲンロン——著者である東浩紀が、二〇一〇年に創業した企業。出版業を中心に事業展開をしている。

水俣病——日本の代表的な公害病のひとつ。熊本県水俣湾周辺で一九五三年ごろから、魚介類を介して工場から排出された有機水銀を摂取した人々に、回復困難、あるいは死に至る神経系の障害が発生した。一九六八年に公害認定。

問一 文中の二重傍線部（a～d）のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

a 辺キヨウ

1

- ① キヨウ二重傍線小な土地に家を建てる
- ② 船が海キヨウ二重傍線を渡る
- ③ 理念にキヨウ二重傍線鳴して活動に参加する
- ④ 物語が佳キヨウ二重傍線に入る
- ⑤ 退職してキヨウ二重傍線里へ戻る

b 負カ

2

- ① カ報二重傍線は寝て待て
- ② 全員一致で力決二重傍線する
- ③ 労働の対力二重傍線を求める
- ④ 手力減二重傍線せずに戦う
- ⑤ 新商品が入力二重傍線する

c コ用

3

- ① 権力をコ示二重傍線する
- ② 縁コ二重傍線で人を採用する
- ③ 従業員を解コ二重傍線する
- ④ 候補者の名を連コ二重傍線する
- ⑤ 会社のコ問二重傍線になる

d 擁ゴ

4

- ① 人ゴ二重傍線に落ちない
- ② 与野党がゴ越二重傍線同舟で事にあたる
- ③ 覚ゴ二重傍線をきめる
- ④ ゴ角二重傍線の戦いを展開する
- ⑤ 犯人をゴ送二重傍線する

問二 文中の波線部（i・ii）の意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

i 目端のきくひと

- 5
- ① 物事の中核を把握することができる人
 - ② 発想が豊かでたくさんのことを思いつく人
 - ③ 視野が広くいろいろなことを知っている人
 - ④ その場の状況に応じてとつさに判断できる人
 - ⑤ 人とは異なるアイデアを創出できる人

ii 仮託

- 6
- ① 虚構の世界を用いて現実を言い表すこと
 - ② 他の物事を喩えとして用いて言い表すこと
 - ③ 事実と異なる物事を引き合いに出して言い表すこと
 - ④ 共通点のあるものを引用して言い表すこと
 - ⑤ 関連付けられる他の物事を借りて言い表すこと

問三 文中の傍線部1（みながひとりだけで生き、ひとりだけで死ぬと決めることは、またべつのこととも意味している）とあるが、「べつのこと」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

7

① 自分一人だけで生きて子孫には何も残さないと言いながら、世俗主義や功利主義の思想については正当なものとして長く大切に伝えていこうとするということ。

② 「いまここ」に存在している自己の快楽が手に入るかどうかが物事の判断の基軸となり、正義や道徳などのもつ価値について語ることが許されなくなってしまおうということ。

③ 自己中心的な言動が社会全体に広がり人と人との関係性が希薄になることで、個人の間で頻繁に対立が生じ、長期的な視点から見れば社会全体に不利益がもたらされるといふこと。

④ みな「いまここ」の利害だけを追求するようになり、長期的な視点や理念に基づく行動の望ましさを訴えるときの^よ 抛り所となるべき共通認識が失われてしまおうということ。

⑤ 世俗主義や功利主義があがめたてられ、行為の意味付けを快楽の増減によって語るといふ風潮が正しいものとして世間に広く認められることで、誰もが人としての品性を失ってしまうということ。

問四 文中の破線部（A～C）を別の語に置き換えるのに最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

A	きっかけ	8	① 機会	② 刺激	③ 契機	④ 起源	⑤ 起因
B	あきらか	9	① 自明	② 明解	③ 簡明	④ 明察	⑤ 平明
C	エビデンス	10	① 公理	② 論証	③ 客観性	④ 論理	⑤ 証拠

- 問五 文中の空欄（ア～ウ）を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し選んではならない。ア 11、イ 12、ウ 13
- ① おまけに ② だから ③ なおさら ④ 一方で
- ⑤ けれども ⑥ さもないと ⑦ むしろ ⑧ あるいは

問六 文中の傍線部2（けれどもその読解は正確ではない）とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。 14

- ① 『苦海浄土』は水俣病の現実についてリアリティをもって伝えることで、この公害を世界に伝えた著作として読まれてはいても、実際の価値はその社会的な影響力よりも、文学として豊かな創作性の中に見出みいだされるべきだから。
- ② 『苦海浄土』は水俣病を世界に広く認知させる力を持ったすぐれた記録小説として読まれてはいても、実際は石牟礼が水俣病の苦悩を仮構の世界として設定し、現実とは関係なく作りあげることによって書かれた小説だから。
- ③ 『苦海浄土』は今の読者にとってもかつての読者にとっても水俣病における苦悩のリアルを生々しく描いた著作ではあるが、今の読者がかつての読者と同じようにその苦しみを理解してこの作品に向き合えるわけではないから。
- ④ 『苦海浄土』は水俣病の現実を細部まで伝えるリアリティのある著作ではあるが、公害の被害者が実際に語った言葉をすべてそのまま写し取ったものではなく、石牟礼が現実をもとに創作して描いたところもあるから。
- ⑤ 『苦海浄土』は被害者から聞き取った言葉を用いることで生々しい現実が描き出されているすぐれた作品であるのは確かだが、聞き取った言葉をこの小説の中で描く際、聞き書きの形式が用いられているわけではないから。

問七 文中の空欄（Ⅰ～Ⅲ）を補うのに最も適当な組み合わせを、次の選択肢の中から選べ。

15

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|----|-------|---|-----|-------|
| ① | I | 記録作家 | — | II | 幻想的詩人 | — | III | 無名の詩人 |
| ② | I | 記録作家 | — | II | 無名の詩人 | — | III | 幻想的詩人 |
| ③ | I | 無名の詩人 | — | II | 記録作家 | — | III | 幻想的詩人 |
| ④ | I | 無名の詩人 | — | II | 幻想的詩人 | — | III | 記録作家 |
| ⑤ | I | 幻想的詩人 | — | II | 無名の詩人 | — | III | 記録作家 |
| ⑥ | I | 幻想的詩人 | — | II | 記録作家 | — | III | 無名の詩人 |

問八 文中の傍線部3（私小説）とあるが、日本の文学史上の「私小説」に大きな影響を与えた思潮や立場として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

16

- ① 自然主義 ② 浪漫主義 ③ 新感覚派 ④ 耽美派 ⑤ 余裕派

問九 文中の傍線部4（現在の常識で判断すると、これはたいへんなことをいつている）とあるが、なぜそのように言えるのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

17

① 政治的な対立を含む事柄を作品の主題に据えて小説を書くことは、原発事故の際に出版の影響力によって社会に大きな分断が生じてしまったという事実を踏まえればきわめて慎重にならざるを得ない行為であり、それは現在の常識として許されるものではないから。

② 事実と虚構との区別を自覚することは本を著すときに心を碎くべき重要な事柄なのに、この点を自覚しないまま書きすすめることは、社会的にさまざまな影響を及ぼす可能性があると考えられ、それは現在の常識では許されるものではないから。

③ 被害者の声を文字にして出版すれば、たとえそれが加害企業から被害者を守るためのものであっても、批判の対象となる企業で働く多くの人たちの生活そのものも脅かされることになるのは必然であって、そのような攻撃的な行為は、現在の常識では許されるものではないから。

④ 政治的に強い立場と弱い立場が対立して解決の糸口が見つからない状況の中で、弱い立場の側に肩入れをするかのよいうな小説を著せば、強い立場にさからうことで社会の混乱を招く行為であると言うことができ、それは現在の常識では許されるものではないから。

⑤ 対立するさまざまな立場が併存している状況下で、特定の視点から見た世界を客観的な事実として描いたかのようにみえる形で著作物を発表すれば、立場を有利にするためにもっともらしい話を作り上げたとも言え、それは現在の常識では許されるものではないから。

問十 文中の傍線部5〔石牟礼のような手法が肯定されるべきなのかどうか〕とあるが、「石牟礼のような手法」とはどのような「手法」か。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

18

① 虚構と真実とを織り交ぜることによって生まれる文章の効果を重要視し、弱い者の側に立つという自己の立場を明確にすることで、社会における弱者の真実を説得力をもって描くという手法。

② 声なき声を代弁するために、本人が気づいていないことばを探り当て、実際に語られたという事実の再現にはこだわらず、その内面の心を表現することに最大限の努力をするという手法。

③ 利害の不一致に頓着することなくあくまでも被害者の心に寄り添うことを目指し、その内面の奥深くまで知ることができるまで聞き取りを重ねたさまを小説として記録するという手法。

④ 事実と虚構とをきれいに分け、実名や実際の地名などについて正確に記すと同時に、周辺の事柄や、語り尽くされることはなかったことばも丁寧に言語化して示すという手法。

⑤ 事実とは異なる世界を豊かな筆致で描きはするが、事実と異なるのだということをとくに公にはしないままに作品を発表することで、社会に大きな変化のうねりをもたらすという手法。

問十一 文中の空欄(X)を補うのに最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

19

① 当事者が心の奥底から伝えたいと強く思っていること

② 当事者自身がいいいたいと思ってもいえないこと

③ 相手に伝えたいと当事者自身も自覚できていないこと

④ 当事者が自らの心中のありのままを包み隠さず語ったこと

⑤ 相手が自分についてほしいと察して当事者がいつていること

問十二 文中の傍線部6〈『苦海浄土』は、ぼくたちの時代のそんな浅薄さにあらためて気づかせてくれる〉とあるが、どう
いうことか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

20

① いま私たちは、声に出して語られた事実に基づいてその内容を広く世に伝えることであたかも当事者の声を正しく代
弁できているかのように思っているが、『苦海浄土』の果敢な手法を目にすると、現代のやり方では代弁したことには
ならないことがわかる、ということ。

② 現代は、人に寄り添い共感することよりも、客観的事実に基づいてその人たちが伝えたい事柄を代弁することこそが
重要だと考える時代だが、『苦海浄土』の存在を知ってしまえば、嫌でも人を救う力をもつのは代弁ではなく共感なの
だということがわかる、ということ。

③ かつて私たちは、弱者の心の声を聴く力をもち、当事者の苦しみを伝える代弁者となる力をもっていたが、『苦海浄土』
を読むことで、今の私たちは、かつてもっていたはずの人の話に耳を傾ける力をすでに失い、代弁者となる資格を喪失
していることを思い知らされる、ということ。

④ いまの時代、私たちは主張したいと思うことがあればその根拠を提示して世に問うてみることが重要だと教えられて
いるが、『苦海浄土』の方法を目の当たりにすると、本当に伝えたいことがあるならば根拠を提示する必要すら実はな
いのだということに気づかされる、ということ。

⑤ いまの時代、弱者の代弁という名の下に当事者がいいたいこととは異なる事柄を語ることは許されないが、『苦海浄土』
によって、代弁とは本来、当事者のいいたいことに沿うかどうかではなく、代弁者自身の信念に従って行うもののだとい
うことを思い知らされる、ということ。

次の
II の問題は、「国語(2)」の受験者が解答してください。(解答番号は 21 ～ 39)

II 次の文章は、安土桃山時代から江戸時代前期の武将・歌人である木下長嘯子の紀行文『九州の道の記』の一節である。これを読み、後の問い(問一～問八)に答えよ。(40点)

さて須磨・明石の月をながめつつ、播磨国にしるよししてまかりて、二十日あまり留まりぬ。

そこに親しかりける人のもとへ、おもしろかりける桜にさして、

X 出でて行くあとなくさめよ桜花我こそ旅に思ひ立つとも

かくよみおきて、日数を経つつ行くままに、備中国吉備の中山に着きぬ。つれづれさのあまり、ここかしこ見歩き侍りて、かの細谷川の辺りに至りて、

今日ぞ見る細谷川の音にのみ聞きわたりにし吉備の中山

その水上に上りて見れば、小さき池のなかより、絶え絶え出づる清水なりけり。かの清水、水無月の頃ほひも絶ゆることなしとなんいへり。その谷川の広さ、筆策といふものの長さばかりなんありける。その夜は神主の家に泊まりぬ。

翌日は雨そば降りければ行きもやらず。その所に宮造りし給ふは、すなはち吉備津大明神と申し奉る。火焚き屋に釜二つを並べ据え置きたりける。その釜一つ、神供を調ふることに、おびただしく鳴りとよむよしを聞きて、望み侍りける。まことに雷などのやうに、しばしとどろきて聞こえけり。これぞ神秘となん言ひ伝へし。

それより備後の鞆といふ浦近きわたりに、十日あまり留まりぬ。そのほかの浦見にまかりぬ。そこに一夜侍りて、明け方の浦の景気を見やれば、近きわたりの島ども薄霞み、漕ぎ来る舟もよしあるさまなり。

Y 忘れめや霞のひまの磯つたひ漕ぎ出づる舟の鞆の浦波

さる歌よみたるよし主に語りければ、感じてこれを書きとめける。「さて、見し鞆の浦のむろの木は常世にあれどとよめるは、

いづこそ」と尋ね侍りければ、「昔はこの浦にありつと言ひ伝へたれど、今は跡かたも
らはず。されどあの磯にありしなど、古き人は申し置きける。いざさせ給へ、教へ奉らん」と言ふほどに、
ことなる見所もなく、ただ波の寄せ来るのみにてぞありける。かく名ある木も跡かたなく、何事も昔に変わりはりゆくこそものご
とに悲しくは

C

A

ねば、さだかに知る人もさぶ

B

たれど、

注 播磨国——旧国名。現在の兵庫県南西部。

備中国——旧国名。現在の岡山県西部。

箏篳——雅楽用の管楽器。現在残っているのは小箏篳で、長さ約一八cm。

神供を調ふることに——神への供え物を用意するたびに。

備後——旧国名。現在の広島県東部。

見し鞆の浦のむろの木は常世にあれど——『万葉集』卷三「我妹子わぎもこが見し鞆の浦のむろの木は常世にあれど見し人ぞ

なき」の歌のこと。

問一 文中の波線部 (i ~ iv) の意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

i しるよしして

- 21
- ① 昔からの知人が住んでいて
 - ② 領地としての縁があつて
 - ③ 興味のある場所があつて
 - ④ 敵対する勢力があつて
 - ⑤ 家族が滞在していて

ii おもしろかりける

- 22
- ① 美しく咲いた
 - ② 珍しい種類の
 - ③ 色の白さが際立った
 - ④ 変わった形に切り揃そろえた
 - ⑤ 風流な名称の

iii つれづれさ

- 23
- ① 疲労がたまっていること
 - ② 興味が尽きないこと
 - ③ 友人が多いこと
 - ④ 手持ちぶさたなこと
 - ⑤ 時間がたつぷりあること

iv 鳴りとよむ

- 24
- ① 鳴る気配がする
 - ② 鳴り続ける
 - ③ 鳴りながら動く
 - ④ 鳴った後にお告げがある
 - ⑤ 鳴りひびく

問二 文中の二重傍線部 a 〈し〉、b 〈ぬ〉、c 〈め〉、d 〈ん〉の助動詞の意味として最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し選んではならない。

- ① 過去
- ② 使役
- ③ 尊敬
- ④ 推量
- ⑤ 完了
- ⑥ 自発
- ⑦ 断定
- ⑧ 打消
- ⑨ 意志

問三 文中の空欄 (A ~ C) を補うものとして最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し選んではならない。

- ① 侍ら
 - ② 侍り
 - ③ 侍る
 - ④ 侍れ
 - ⑤ まから
 - ⑥ まかり
 - ⑦ まかる
 - ⑧ まかれ
- A 29、B 30、C 31

問四 文中の傍線部 1 〈水無月〉とあるが、(1)それは旧暦何月の異称か、(2)その季節はいつか。最も適當なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

- (1) **32** ① 一月 ② 二月 ③ 三月 ④ 四月 ⑤ 五月
⑥ 六月 ⑦ 七月 ⑧ 八月 ⑨ 九月 ⑩ 十月
- (2) **33** ① 春 ② 夏 ③ 秋 ④ 冬

問五 文中の傍線部 2 〈雨そぼ降りければ〉とあるが、雨の状況の説明として最も適當なものを、次の選択肢の中から選べ。

- 34** ① 雨が激しく吹きつけている状況
② 小雨がしめやかに降っている状況
③ 雨が長期間にわたって降り続けている状況
④ 大量の雨が激しい勢いで降っている状況
⑤ 通り雨がぱらぱらと降っている状況

問六 文中の和歌X〈出でて行くあとなくさめよ桜花我こそ旅に思ひ立つとも〉の解釈として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

35

① 逢瀬わうせの後の別れはつらいものですが、あなたに送るこの桜花を私の代わりだと思ってかわいがってほしいという、恋の歌。

② つらい旅路にあっても、桜花よ、この故郷を私に思い出させるたよりとなっておくれという、郷愁の歌。

③ 私はここから旅立ちますが、この桜花は変わることなく美しく咲き誇ってみなさんを慰めることでしょうかという、挨拶の歌。

④ 私は出家しますが、あなたはこの桜花を私の形見だと思って、悲しまずにいてくださいという、発心の歌。

⑤ 私はこれから旅に出てしまいますが、桜花よ、私に代わってあの人を慰めてほしいという、別離の歌。

問七 文中の和歌Y〈忘れめや霞のひまの磯づたひ漕ぎ出づる舟の靫の浦波〉の説明として最も適当なものを、次の選択肢の

中から選べ。

36

① 「忘れめや」は「霞」にかかる枕詞である。

② 「霞」「ひま」「磯」「波」は縁語である。

③ 「靫」は「靫」（地名）と「艦とよ」（船尾）の掛詞である。

④ この和歌は「霞かすみのひま」の「みの」に「簀み」を詠み込んだ物名歌である。

⑤ この和歌は「磯づたひ」で切れる三句切れである。

問八 次の説明文を読み、空欄（ア～ウ）を補うのに最も適当なものを、後のそれぞれの選択肢の中から選べ。ただし、空欄アは二箇所ある。

『九州の道の記』は京から肥前名護屋（現在の佐賀県唐津市）への旅程を綴った紀行文である。問題文は、摂津国から備後国までの旅程の部分で、筆者は須磨・明石・吉備の中山・細谷川・鞆の浦といった **ア** を訪れながら旅を続けている。細谷川で詠まれた和歌「今日ぞ見る細谷川の音にのみ聞きわたりにし吉備の中山」の「音」は、細谷川の「音」と、「**イ**」でその名を聞くだけであった吉備の中山という両意があるが、初句「今日ぞ見る」にみられる著者の感動からは、自らの目で確かめることを重視する、近世的な志向を読み取ることができる。水量が多いわけではないのに絶えることのない細谷川上流の清水、吉備津神社の釜の神事という神秘的な事象を記載している点からも、単に **ア** をめぐるのではない、伝統的な紀行文の枠には留まらない新しさがあるといえよう。

最終段落（「さる歌よみたるよし」の段落）では、昔から語り伝えられていた **ウ** のありかをたずねている。しかし「主」があらかじめことわっていたとおり、もはや跡形もなく、波が寄せるばかりである。その現実を目前にして、筆者は有為転変の世相を痛感し、悲しみを深めている。

- | | | | | | | |
|---|-----------|-------------|-------|--------|-------|------------------------|
| ア | 37 | ① 『源氏物語』の舞台 | ② 歌枕 | ③ 霊場 | ④ 領地 | ⑤ 古戦場 |
| イ | 38 | ① 手紙 | ② 文章 | ③ 伝言 | ④ 歌曲 | ⑤ 噂 <small>うわさ</small> |
| ウ | 39 | ① 我妹子 | ② 鞆の浦 | ③ むろの木 | ④ 見し人 | ⑤ 詠み人 |

次の
Ⅲの問題は、「国語(1)」の受験者が解答してください。(解答番号は 40 ～ 58)

Ⅲ 次の文章は、町の多様性や居場所づくりなどの観点から、人口減少社会における居住のあり方について考察したものの一部である。これを読み、後の問い(問一～問九)に答えよ。(40点)

ここではまず、町を気に入ってもらおうということは一体どういうことなのかを考えてみよう。これまで見てきたように、人間というのは時間とともに、いろいろなタイプの生活者であることを遍歴する。例えば、一五歳と四五歳と七五歳の大月君は、同じDNAをもち、同じ名前で呼ばれ、同じ戸籍に登録されながら生きているには違いないが、年齢によってその生態がかなり異なることは容易に想像がつくだろう。もちろんその時々で、住宅への要望や住宅をとりまく町に対する要望が、かなり異なってくるのである。

例えば、一五歳の大月君はプライバシーの高い部屋を望んでいる。あまり親に干渉されたくないのも、ダイニングにもリビングにもあまり顔を出さない。そのかわり、学校の帰りに寄り道できるゲームセンターやコンビニ、いろいろな都会的な商品を豊富にそろえているお店や、多少遅くまで遊んでも怒られない友達の家といった環境を、町に欲している。

例えば、四五歳の大月君がほしい住宅は、女房子どもから干渉されない書斎があることだ。でも、子どもには自分の部屋に引きこもってほしくない。そのかわり、ダイニングやリビングは家族でにぎわってほしい。たまに、自分で釣ってきた魚を料理して、人でも呼んで振る舞ってみたい。町には、ちょっと一杯ひっかけることのできる馴染みの赤提灯があれば素敵だ。あるいは休みの日に、一人でほっとできる気の利いた喫茶店があればなおよい。

例えば、七五歳の大月君は、そろそろ体がいうことをきかなくなってきた。住宅が広いと掃除も大変だけど、狭くていろいろなモノが転がっていると転倒の危険がある。部屋もモノも整理してコンパクトを心掛けなければならない。そして人間関係も、そろそろコンパクト化しなければならぬかもしれない。でも、娘がたまに孫を連れて遊びに来るときに、思いっきりは

しゃいでもらえるような部屋の広さは必要だ。家の外は静かな方がいい。歩いていける図書館などがあって、朝はのんびりそこで新聞など読んで、顔見知りの人と少しだけ世間話をして、帰りに気の利いた喫茶店にでも寄って帰ることができればいい。そして、自分や妻に何かあったとき困らないような、安心な病院、サ高住、有料老人ホーム、特養が、一通りそろった町になってくれれば安心なのだ。

こんなふうには、同じDNAをもった人間でも、年頃に応じて、住宅や町へ要望することはころころと変わるものである。住宅や町は、このように大変わがままに遍歴する人間の要求の変化を、タイミングよく受け入れなければならぬ。

住宅については、増築したり、リフォームしたり、引越^{ひっこ}したりして、自分の要求に近いところにもっていくことができる。しかし、町の方は、**A** 的には引越ししなければ、自分のニーズには合わない。ただ、「住めば都」という言葉があるように、一つ所に我慢せずと住んでいけば、だんだんと町の環境に、自分自身のニーズがシンクロⁱⁱしてくる場合もあるだろう。これは、人間の方が町の環境に適応していくという側面もあるだろうが、逆に、町の方が時間をかけて人間の要求に合わせて変化してくれるという側面もあるのではないだろうか。時とともに、町がそこに住む人びとのニーズの変化に応じて変わってくれることだってありうる。あるいは、行政にそれを要望して、時間をかけて実現する場合もあるかもしれない。

最初から町が多様な種類の人間によって住まわれていけば、その町はそれぞれの年頃の人に対して多様なニーズに応えざるを得ないのであるが、新規開発された多くの住宅地ではそれは望めない。そうした町は必ず「三五歳と生まれたて」の要求を満たすようにつくられる。もつと²いってしまえば、彼らの要求のみを満たすようにつくられるのが普通である。

ただ、居住者たちが歳を重ねていくにつれ、町に要求される事柄も変化する。このことを通じて、町も少しずつ変わっていくということもある。ここで居住者のニーズが多様に変化することができれば、町も多様なニーズに応えるように歳を重ねるに違いないが、これまでに見てきたモノトーンⁱⁱⁱの住宅地では、居住者のニーズが変わっても、それはニーズのピークがシフトするだけである。わかりやすい例でいえば、町がはじまった当初は、保育園だの小学校だのが足りないが、三〇年もすれば、学校は統廃合され、空きビルとなる一方で、高齢者サービス施設が足りなくなるといった現象にしかならないのである。

こうした意味でも、町自体が多様化するように歳を重ねるためには、居住者自身の属性も多様化しなければならぬし、もしこうしたことが望めないなら、その町はその **B** 的な年齢層以外の人びとのニーズを受け入れられずに、減じていくことになりかねない。

逆に、そこで時間を重ねて変化していく人びとの多様なニーズを丁寧に受け止めながら町が成長していくことができれば、その町は「生活の薬箱」ともいえるような環境となるだろう。

人間は生活上の課題を、いろいろな方法で解きながら、日々の生活を送っている。時にはその課題を、町がもっている機能で解決してくれることもあるだろう。例えば、一五歳の大月君にコンビニやゲームセンターを提供してくれたり、四五歳の大月君にほっと息のつける赤提灯を提供してくれたり、七五歳の大月君には毎朝寄れる図書館を提供してくれたりすることだっ
てあるだろう。娘夫婦が孫を連れて近くに寄り住んでくれるのも、歳老いて何かあったときに安心なサービスが提供されるのも、町がもっている機能によって生活課題を解くのを手伝ってくれているからだと考えることもできるだろう。

人は町の中の空間や町に住む人びとの中に、ある種の資源を発見して、それを利用して自ららの生活課題を解決していく体験を積んでいく。そうやって長年、町に助けられながら暮らしている人びとにとっては、「そういうときにはここに行くもんだ」とか、「そういうときには誰々さんに相談すれば解決するんだ」というような、解決のための薬が町のあちこちに点在していることが体得されてくる。ある人にとって、時間をかけて町全体があなたも薬箱のような存在になること、そのことをもって、我々は「住めば都」と表現するのだろうか。

A、四五歳の大月君がほっと一息つける赤提灯は、どのように発見されるのだろうか。その店が四五歳の大月君にとってベストの赤提灯だということは、ネットのお店ランキングなどには載ってはいない。通常、似たようなお店をシコウ錯誤して、何回も通いながら、ここは自分の薬だと思える場所を発見するわけだ。そうした意味では、発見というよりも **C** 性の構築に近いかもしれない。店の常連客的な立場を獲得するためには、店主にとっても、よい馴染みの客として振る舞わねばならない。よい常連客としての振る舞い方も、何回も通いながら、少しずつ身につけなければならぬ。

また、この赤提灯だけが、四五歳の大月君の唯一のほっとできる場所であるとするならば、それはまた寂しいことかもしれない。たまに家族と行く居酒屋や、遠くから来た親友を連れていくためのバーも、ちょっとした潤すだけの立ち飲み屋もあった方がよい。その時々々の症状に応じて、さまざまな薬が処方されるような町が、四五歳の大月君にとっては、いい町に違いない。だが、そうした町は四五歳の大月君とその同年配だけの活動のみによって成形されるものではない。町にいろいろな人がうごめきながら、それぞれが訴える症状を少しずつ**カンワ**する店々がラインアップされてこそ、多様な人びとにとっての薬箱と思える町が出来上がるのであろう。

このようにして、ある人にとってその町が薬箱のように見えてくると、今住んでいる住宅に不具合があつて、引越さねばならない事態になったとしても、なるべくこの薬箱を手放さないようにしたくなるに違いない。当然、この町に住んでいる見知った人びととのつながりも含めての薬箱なわけだから、住宅に不具合があるだけだったら、近所に引越せばいいということになる。また、この町が自分の薬箱のように思えるまでに、自分がこの町に費やした時間とエネルギーは**莫大だ**。**イ**、その時間の**チクセキ**はそのまま町での暮らしの思い出でもある。

こういうこともあり、この町が「住めば都」的に思えてくると、家族や親類や友達までをも呼んで、「そんなんだつたらこの近くに引越せばいいよ。いい物件見つけてやるよ」といった具合になつて、近居が増えてくるようになり、さらにこの町を離れ難いものとしていくのであろう。こうして町は、居続けたいと思つた人びとによって、時間をかけて拠点化されていくのである。そうして拠点化された結果、この町を人びとは「地元」と呼ぶようになる。

ウ、すべての人びとが町を拠点化するわけではないし、町を拠点化した人びとが偉いわけでも何でもない。経験的にいうと、ざっくり一割から三割程度の人びとが、その町を意識的に、また無意識的に拠点化しようと感じているのではないかと思う。じつはこの数値、いろいろな地域で近居を実践している人びとの割合に近い。どんな地域でも、そこを拠点化してもいいなと思っている人と、そうでもない人は一定割合いるものだ。**エ**、泣く泣く拠点を離れなければならない人もいるだろうし、一刻も早く引越したいのだが、なかなかその道が開けずに困っている人もいるだろう。

このように、「町の拠点化」⁴というのは、ある一定割合の人びとの、ゆるい定住現象を説明するためのキャッチフレーズでもある。逆にいえば、住民から拠点化もされないような町では、町の持続性の観点から困ったことになってしまう。したがって、このフレーズは、そこに居続けて町を育てるセキム^dを負い続けている行政の仕事のためにも、有効だと思っている。新規住宅地ならば、せめて一割から三割くらいまでの人びとが、その町を拠点化しようと思うような町を目指すことが、今後の町のつくり変えにとっての重要なテーマの一つとなるのではないだろうか。

(大月敏雄『町を住みこなす——超高齢社会の居場所づくり』による)

注 サ高住、有料老人ホーム、特養——「サ高住」はサービス付き高齢者向け住宅の略。「特養」は特別養護老人ホームの略。いずれも高齢者向けの居住施設。

近居——自分に関わりのある人たちと、日常的な往来ができる範囲に住むこと。

問一 文中の二重傍線部（a～d）のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

a シコウ

40

- ① 高齢者福祉のシ策をまとめる
- ② シ福の時を過ごす
- ③ シ慕の念がつのる
- ④ みんなでシ練を乗り越える
- ⑤ ルールをシ意的に解釈する

b カンワ

41

- ① カン静な住宅街
- ② カン大な措置を望む
- ③ カン急自在の投球術
- ④ カン高い声で呼ぶ
- ⑤ カン断なく雨が降る

c チクセキ

42

- ① 意識とチク語訳
- ② ダムをチク造する
- ③ あの人は人チク無害だ
- ④ チク馬の友と再会する
- ⑤ 含チクのある言葉

d セキム

43

- ① 真相の解明が急ムだ
- ② 山が雲ムに覆われる
- ③ 成功の見込みは皆ムに等しい
- ④ 創作活動にム中になる
- ⑤ 彼の説明はム盾が目立つ

問二 文中の波線部 i (馴染みの赤提灯があれば素敵だ) とあるが、大衆酒場の店先にはよく赤提灯が掛かっていることから、ここでは「赤提灯」という言葉が「大衆酒場」を表している。このような修辭法を「換喩」というが、同じ「換喩」を用いた表現を、次の選択肢の中から選べ。 44

- ① 大学を卒業して社会にはばたく。
- ② 鳥が歌い、風がささやく春となった。
- ③ 人生は曲がりくねった道を行く旅である。
- ④ 中学生の頃からずっと漱石を愛読している。
- ⑤ あの人はこの部署の生き字引である。

問三 文中の波線部 (ii・iii) の意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。



問四 文中の空欄 (A・C) を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し選んではいけない。 A 47、B 48、C 49

- ① 絶対
- ② 関係
- ③ 具体
- ④ 創造
- ⑤ 支配
- ⑥ 理想
- ⑦ 基本
- ⑧ 実用

- 問五 文中の空欄(ア～エ)を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返して選んではいけない。ア **50**、イ **51**、ウ **52**、エ **53**
- ① だが ② もちろん ③ または ④ なぜなら
- ⑤ かえって ⑥ ところで ⑦ もしくは ⑧ しかも

問六 文中の傍線部1(人間というのは時間とともに、いろいろなタイプの生活者であることを遍歴する)とあるが、「いろいろなタイプの生活者」とはどのようなものか。本文の内容に合致するものを二つ、次の選択肢の中から選べ。ただし、解答の順序は問わない。 **54** ・ **55**

- ① 一五歳の大月君は、家の中では親のいる空間を避けて自分一人の部屋にいたいと思っているが、家の外では同世代の友人やその家族と親しく交われる環境を欲している。
- ② 一五歳の大月君は、新しい流行に触れたり羽目を外したりしたいと思う一方で、大人から叱責されることを恐れて、社会のルールに従って生きるのがいいと考えている。
- ③ 四五歳の大月君は、人と接することを第一に考えていて、時々自分の家に友人を招きたく思い、家族にもできるだけリビングで過ごして欲しいと思っている。
- ④ 四五歳の大月君は、家の中で一人こもることのできる書斎を欲するのみならず、家の外でもひと息つける、飲み屋や喫茶店といった場所があることを望んでいる。
- ⑤ 七五歳の大月君は、人間関係を整理していかなくはないと思う反面、自分に何かあったときに支えとなる、心を許せる友人を新たに得たいと考えている。
- ⑥ 七五歳の大月君は、多くの人との交流を求めているわけではなく、静かでリラックスできる、図書館や喫茶店などの場所が徒歩圏内にあることを望んでいる。

問七 文中の傍線部2〈新規開発された多くの住宅地ではそれは望めない〉とあるが、筆者はその理由をどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

56

- ① 多様なニーズの一つ一つ応えていくことが住宅地に課せられた役目であるはずだが、新たに造成されたばかりの町にはそれに応えるだけの経験値が十分ではなく、ニーズへの対応は住み始めた人たち自身に委ねざるを得ないから。
- ② 新規に開発された町にとって、ニーズの変化は町が新たな機能を備えていく契機になると考えられるが、町がニーズの変化に向き合って対応しようとしたときにはすでに対応すべきニーズのピークはシフトしてしまっているものだから。
- ③ 住宅地を開発する業者にとってみれば、新たに開発した住宅地をより多くの人に提供することが何より重要なのであり、そこに住まう人々のニーズに柔軟に対応することが優先されるようなことは基本的に期待できないから。
- ④ 町に多様な人々が住んでいるのはじめて多様なニーズが生まれ、それに対応した町ができるのだが、新たに開発された住宅地の多くは、もっぱらこれから子育てをしようとする家族のニーズに合わせて設計されているものだから。
- ⑤ 解決すべき多様なニーズがあることは町を活性化させることにつながるが、新規開発された住宅地では町の固有の魅力に引きつけられた人たちが集まっているために、いつまで経^たってもニーズが多様化することはないから。

問八 文中の傍線部3〔「生活の薬箱」ともいえるような環境〕とあるが、それはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

57

- ① 町に住んでいると常につきまといってくる困惑を覚える事柄について、行政に訴え続け、関連する窓口もそれに対応することで、状況の改善が期待できるようになり、人々が安心感を覚えるような環境。
- ② 町に住む人たちが時間をかけて町にある場所や人々と良い関係を築いていき、生活の中で何か問題があったときに町が持っている様々な機能や人々との関わりによって問題を解決していけるような環境。
- ③ 町にただ住んでいるというだけでは無力な人たちが、時間をかけて町の中から自分にとっての資源を見つけていき、その資源を利用して自分が思った通りに町を改造することができるといえるような環境。
- ④ 住民の種々雑多な要求一つ一つに対して町が行政組織として時間をかけて丁寧に対応していくことで、町に暮らす人たちが、町全体の至る所にあたかも薬局が存在していると感じられるような環境。
- ⑤ 自分たちの町を消滅させてはならないと考え、住民と行政とが一体となってニーズの多様化に取り組むことで、町全体が機能を高めていき、大小を問わずあらゆる生活課題を解決できるような環境。

問九 文中の傍線部4〔町の拠点化〕というのは、ある一定割合の人びとの、ゆるい定住現象を説明するためのキャッチフレー

ズでもある〕とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

58

① 「町の拠点化」という言葉は、どの町においても一定の割合で出現する、心の底から町を愛して故郷にしようと考えている人たちの、いかにその町に深く関わっているかを表明する、強いメッセージでもあるということ。

② 「町の拠点化」という言葉は、町の一割から三割程度の住人が、町を活動の拠点とすべく積極的に町づくりに関わっていきながら、他の町の同じような活動を行う人たちに連帯を呼びかける際の標語にもなるということ。

③ 「町の拠点化」という言葉は、この町を気に入ってくれている来訪者に対して、町の魅力をより理解してゆくゆくは定住してもらおうと考えている住人が発信する、呼びかけのキーワードともなるということ。

④ 「町の拠点化」という言葉は、一部の住民が感じる心地よさを伝える情緒的な表現であるのに加えて、人口減少社会にあってもなんとか町を存続させようとする行政の担い手が移住を勧誘する、戦略的な表現でもあるということ。

⑤ 「町の拠点化」という言葉は、地元としての愛着を持って町に定住することを考える人たちの行動原理を端的に説明しており、それは町づくりをしていく上での方向性を指し示す手がかりにもなるということ。